

森林環境税導入以降の 森林・緑化等に関する議会の主な意見

《平成28年9月議会》

○ 環境農林水産常任委員会

・「子育て施設木のぬくもり推進事業」は、府民の身近にある施設において、子どもたちが幼いころから直接木にふれあう場を提供するとともに、木材のよさを実感していただくことに森林環境税が活用され、森林の少ない大阪市内などにも還元されることは、非常に意義があるもの。

[H28.10.13:公明党 中野府議]

・森林環境税の理解と協力を得ることとあわせて、府民の皆さんに森林保全対策の重要性を知っていただき、広くその意義を理解していただくことが必要であり、そのための取組みを事業と並行して進めていくべき。

[H28.10.13:大阪維新の会 岩木府議]

《平成29年9月議会》

○ 代表質問

・森林環境税の使い道を納税者である府民にどのように使われているかお知らせすることは重要であり、府は、府民に十分説明を行う責任がある。特に都市部の住民を対象にした説明会は、人口比からしても十分に行うべき。

[H29.10.3:自由民主党 徳永府議]

○ 環境農林水産常任委員会

・地域住民等が積極的に緑化に取り組んでもらえるよう、引き続き支援に努めるとともに、新たな緑化技術の研究や普及等を進めている民間の取り組みなどに注視しながら、すぐれた緑化技術が広く普及する後押しになるような取り組みについても、今後検討をお願いしたい。

[H29.10.27:大阪維新の会 泰江府議]

・より効果的な防災・減災対策を講じるためには、九州北部の事例などを踏まえるなどして、危険渓流の流木対策事業の取り組みについて、実施手法の検討を行うことも必要ではないか。

[H29.10.27:自由民主党 吉田府議]

《平成30年2月議会》

○ 一般質問

・国の森林環境譲与税と府の森林環境税との整合性や今後の財源の確保について、しっかりと来年度議論をしていただきながら、土砂災害、道路防災とともに山地災害に対する防災・減災対策を早急に進めるよう、強く要望する。

[H30.3.2:公明党 山下府議]

《平成30年9月議会》

○ 代表質問

・異常な暑さから府民の命を守るため、熱中症対策や中長期的にはまちづくりにおける緑化や舗装の改良など、ソフト・ハード両面での各種対策を推進すべき。

有識者などから構成される検討会を立ち上げ、実効性のある猛暑対策を協議検討すべき。
[H30.10.1:大阪維新の会 上島府議]

・今年夏の熱中症による救急搬送者数は昨年のおおね2倍近くとなっており、重点的な対応が必要。都市緑化はヒートアイランド現象の緩和にもつながり、街の魅力を高める上でも積極的に取り組むことが不可欠。

[H30.10.2:自由民主党 杉本府議]

・激甚化する昨今の災害への対応の重要性・緊急性を勘案すると、引続き積極的に山地の災害対策に取り組む必要があると考える。検討の結果により、さらなる対策が必要となれば、現在の森林環境税の継続も一つの方法と考えられる。

[H30.10.2:自由民主党 杉本府議]

○ 一般質問

・昨年の九州北部豪雨災害や今年七月の西日本豪雨災害を踏まえると、土石流や流木の発生を抑制する対策の重要性が極めて増している。これまでの災害状況を鑑みると、森林環境税以前の通常の財源確保策では難しいと考える。

[H30.10.4:大阪維新の会 池下府議]

《平成31年2月議会》

○ 代表質問

・森林環境税を活用した危険渓流の流木対策については、平成32年度末には完了する。新たな知見も踏まえ、計画的かつ総合的な山地災害対策の取り組みが必要である。

[H31.2.26:大阪維新の会 横山府議]

・今後、世界中からさらに多くの人々が大阪に来られることが予想される。大阪の魅力の向上やヒートアイランド対策につながる都市緑化をこれまで以上に進め、大阪の良さを大いに発信をしていくべき。

[H31.2.27:自由民主党 花谷府議]

・現在の府の森林環境税の取組みは自然災害から府民の生命と財産を守るために非常に重要であり、調査を進めているとのことであるが、森林環境税を継続すべき。

[H31.2.28:公明党 八重樫府議]